

## 第8回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事要旨

日時：令和2年2月5日（水）10:00～12:00

場所：富山市役所 801 会議室

出席委員：（順不同）

中村 和之	富山大学 副学長 （議長）
青木 一益	富山大学経済学部 教授
石田 康博	連合富山・富山地域協議会 議長
井上かおり	全日本空輸株式会社富山支店 支店長
上坂 博亨	富山国際大学現代社会学部 教授
近藤 裕世	富山商工会議所女性会 会長
酒井 富夫	富山大学研究推進機構極東地域研究センター 教授
品川祐一郎	富山商工会議所 副会頭
舘 良一	株式会社シー・エー・ピー 代表取締役会長
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部 教授
野尻 昭一	社会福祉法人富山社会福祉協議会 会長
長谷川達雄	富山市薬業推進協会 副会長
不破 泰	信州大学総合情報センター 教授
森永 達也	富山公共職業安定所 所長

出席オブザーバー

坂田 博昭 日本電気株式会社富山支店 支店長

### 要旨のポイント

- ・（資料 2-2. P38）棚田保全と地域振興の目標値（指定棚田地域振興活動を継続実施した地域数）の5地域（令和6年度）は、取組のスピードが遅いのではないかと。もう少しテンポを速めてほしい。
- ・Society5.0の実現に向けた取組としては、単にインフラ整備だけで終わるのではなく、これらを高等専門学校や大学等の授業・講義に取り入れたり、地元企業と提供することなどを通して人材育成を図ることも重要である。
- ・（第2期総合戦略での）コンパクトシティ政策の深化の中身をどう定めるかという視点でのビジョンが必要なのではないか。例えば、情報基盤という技術的なプラットフォームの整備だけではなく、これらをどのようにガバナンスして事業化に繋げていくのかということが重要になる。
- ・SDGsの取組がコンポーネント（構成要素）となっているが、SDGsは全体の枠組みになるものではないか。例えば、（第2期総合戦略に位置付ける各施策を）SDGsの17の目標169のターゲットに落とし込んでいくことで、具体的なアクションが見えてくるかもしれない。そういう説明ができるようなマッピングをしておいた方がよいのではないかと。SDGsそのものは2030年を目標としたものであるが、第2期総合戦略の計画期間は2024年までであることから、きれいにマッピングすることができるのではないかと。

- ・例えば、二酸化炭素排出量の対策としては、緩和策（排出削減のための対策）と適応策（排出による影響に対しての適応）の両面から取り組まれている。第2期総合戦略においては、緩和策としての取組内容が多く見られるが、人口減少社会において、新たな事業を行っていくことも難しくなると考えられるため、適応策の方についても整理する必要があるのではないかと。
- ・（資料 2-2. P19）市内宿泊外国人延べ宿泊者数の目標値 152,000 人（令和 6 年度）は直ぐに達成できるものと考えられ、より高い目標値を設定することが適切と考える。
- ・路面電車南北接続事業によりハード面での整備は進んでいるが、（民間の）市町村のイメージ調査で富山市が全国的に上位にならないのは、ソフト事業が弱いということが原因となっているのではないかと。ハード整備だけで人の動きが変わるわけではないため、地域毎の魅力をつくることで、賑わいを創出することができるのではないかと。

#### 議事内容：

##### 1. 開会

##### 2. 資料説明

#### 富山市人口ビジョン【改訂版】（案）について

#### 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略（案）について

#### 今後のスケジュールについて

○資料 1 にもとづき「富山市人口ビジョン【改訂版】（案）について」、資料 2-1～2-4 にもとづき「第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略（案）について」を事務局より説明した。

#### 委員

- ・（資料 2-2. P40）SDGs 未来都市のロゴマークは富山独自のデザインのものか。ロゴマークの活用方法は。

#### 事務局（環境部）

- もともと（国連の）SDGs のロゴマークがあるが、富山市は平成 30 年に SDGs 未来都市に選定されたことから、市独自のロゴマークを作成している。富山市の形と未来へ向かって進んでいくことをイメージしてデザインしており、いくつかの候補から市民の投票によって決定した。各種フォーラムやイベント等で市の SDGs の取組を PR する際に活用していきたいと考えている。

#### 委員

- ・（資料 2-2. P38）棚田を核とする地域振興を是非進めてほしい。一般的に言われる中山間地域と指定棚田地域では定義が異なるのか。

#### 事務局（企画管理部）

- 棚田地域振興法（令和元年法律第 42 号）で規定される指定棚田地域については、棚田地域であること、指定棚田地域振興活動計画を申請し採択されたものに対して支援があるものであり、一般的な中山間地域とは一致していない。

## 委員

- ・(資料 2-2. P38) 棚田保全と地域振興の目標値(指定棚田地域振興活動を継続実施した地域数)の5地域(令和6年度)は、取組のスピードが遅いのではないかと感じている。もう少しテンポを速めてほしい。
- ・(第2期総合戦略(素案)全体を見て)公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりや、IoT等の方法論の記載はあるが、目指すべきビジョンが見えにくい。総合戦略においても、環境未来都市計画やSDGs未来都市計画等のように、目指すべきビジョンを分かりやすく表現した方が良いのではないかと感じている。
- ・例えば農林水産業について、新たにスマート農業を進めることは良いが、どういう農業を目指していくのかという点で説明が弱いと感じる。例えば、SDGsの実現に向けては、オーガニック(化学肥料や農薬を使用しない野菜や添加物を入れていない食品等)の推進が重要な要素となるが、オーガニックは安全・安心のみではなく環境問題(生物多様性)とも関連がある。農薬を削減することにより、生物多様性に良い効果があるという検証結果もあり、そういう方向での農業の在り方を具体的に掲げる必要があるのではないかと感じている。
- ・富山市の人口が減った状態で、市の農地・山林をそれぞれどのように保全していくのか。その点も踏まえたコンパクトシティ政策でなければならない。

## 事務局(企画管理部)

- まち・ひと・しごと総合戦略は、多くの地方都市が抱える人口減少、少子・超高齢化に立ち向かうための戦略であり、富山市としてはコンパクトシティ施策を中心として、雇用・定住・暮らしをテーマとして掲げている。環境未来都市やSDGs未来都市は人類の共通する理念で広範的な内容でもあるため、第2期総合戦略では、横断的な取組として位置付けている。
- 総合戦略は、人口減少を乗り切るため、向こう5年間、特に力を入れていくものについて記した戦略である。より広範なものについては、総合戦略の上位計画である総合計画において議論していくことになる。
- スマート農業を行うことで、どのような農業を目指すのかという点については検討していきたい。

## 委員

- ・Society5.0は、LPWA網(省電力広域エリア通信網)・AI技術(データを貯めるプラットフォーム)・5Gという3つの科学技術から成り立っている。富山市では、その内、LPWA網とAI技術が整備されているため、残りの5Gを整備することでSociety5.0のモデル都市となり得る。国においても、5Gやローカル5Gの整備に向け補助事業等を行っているため、ローカル5Gに積極的な富山県とも連携し、国の動向を注視しながら進めていくことが望ましい。
- ・また、Society5.0の実現に向けた取組としては、単にインフラ整備だけでなく、これらを高等専門学校や大学等の授業・講義に取り入れたり、地元企業と提供することなどを通して人材育成を図ることも重要である。

## 委員

- ・第1期総合戦略は一定程度成果があったということから、第2期総合戦略はその延長線上で各施策を深堀していくということで異論はないが、(第2期総合戦略での)コンパクトシティ政策の深化の中身をどう定めるかという視点でのビジョンが必要なのではないかと。例えば、情報基盤という技術的なプラットフォームの整備だけではなく、これらをどのようにガバナンスして事業化に繋げていくのかということが重要になる。例えば、現在SDGs未来都市計画で、地域エネルギーマネジメントシステムを構築するためのプラットフォーム作りが検討されており、IoT等の技術を活用しながら、地域内のエネルギービジネスを推進するためのプラットフォーム化を進めることとなっている。これらの流れから、今後プラットフォームがスマートシティの方向に進むとなれば、様々なデータの活用によりビジネスチャンスが生まれるが、果たして市(公共)がガバナンスし切れるのか。これらをどのように考えていくのかが非常に重要となるのではないかと。

## 委員

- ・県内に居住する外国人は増えてきており、多文化共生という観点からも、地域にいる外国人を含めた地域づくりが重要ではないかと。

## 委員

- ・(資料 2-2.P32) 富山駅周辺地区の歩行者数(日曜日)について、基準値をした回る目標となっているが、目標設定について補足説明が必要ではないかと。
- ・SDGsの取組がコンポーネント(構成要素)となっているが、SDGsは全体の枠組みになるものではないかと。例えば、(第2期総合戦略に位置付ける各施策を)SDGsの17の目標169のターゲットに落とし込んでいくことで、具体的なアクションが見えてくるかもしれない。そういう説明ができるようなマッピングをしておいた方がよいのではないかと。SDGsそのものは2030年を目標としたものであるが、第2期総合戦略の計画期間は2024年までであることから、きれいにマッピングすることができるのではないかと。
- ・例えば、二酸化炭素排出量の対策としては、緩和策(排出削減のための対策)と適応策(排出による影響に対しての適応)の両面から取り組まれている。第2期総合戦略においては、緩和策としての取組内容が多く見られるが、人口減少社会において、新たな事業を行っていくことも難しくなると考えられるため、適応策の方についても整理する必要があるのではないかと。

## 事務局(企画管理部・政策監)

- 歩行者数は、ある時点で調査した結果であるため、年によってぶれが生じていることから、令和6年には32,000人は確保したいということで目標値を設定したものである。
- 市の様々な計画においてもSDGsの取組に関する記載がなされはじめたところであり、更に各施策を169のターゲットにマッピングすることで、施策の深堀が図れると思う。

## 委員

- ・(資料 2-2. P19) 市内宿泊外国人延べ宿泊者数の目標値 152,000 人(令和 6 年度)は直ぐに達成できるものと考えられ、より高い目標値を設定することが適切と考える。
- ・今後は、市の情報を SNS 等を用いて個人に直接発信していくことが重要となるのではないかと考える。

## 委員

- ・路面電車南北接続事業によりハード面での整備は進んでいるが、(民間の)市町村のイメージ調査で富山市が全国的に上位にならないのは、ソフト事業が弱いということが原因となっているのではないかと考える。ハード整備だけで人の動きが変わるわけではないため、地域毎の魅力をつくることで、賑わいを創出することができるのではないかと考える。

## 委員

- ・将来に向けて富山市の看板政策となり得る、スマートシティ、SDGS 未来都市、MaaS(モビリティ・アクセス・サービス)の取組を深堀して行ってほしい。

## 委員

- ・人口減少への対応や新たなイノベーションの創出に向けて、Society5.0 の実現、シティラボ等の環境整備を進めてほしい。

○資料 3 にもとづき「今後のスケジュール」を事務局より説明した。

(以 上)